

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name, Value. Fields include: 事業所番号 (0196400055), 法人名 (株式会社 陽光), 事業所名 (グループホーム ひだまりの家), 所在地 (留萌郡小平町字小平町432-9), 自己評価作成日 (平成29年6月13日), 評価結果市町村受理日 (平成29年8月1日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0196400055-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name, Value. Fields include: 評価機関名 (タンジェント株式会社), 所在地 (北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内), 訪問調査日 (平成29年7月26日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ① 「此処で良かった」と思ってもらえるような介護・介助を目指します。
② 利用者様 それぞれの個性を活かせるような支援体制の整備。
③ 隣接する有料老人ホームと交流したり、協力体制を強化しております。
④ 面会・訪問・施設見学等は随時可能です。
⑤ 利用者様の声に耳を傾け 可能な限り要望を受け止めて対応して行けるような支援を目指し進んでいきたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道沿いの小平町ほほ中心街の住宅地に開設され、近くには役場や中学校、幼稚園などの施設がある環境に恵まれた中にある木造平屋造り1ユニット(定員:9名)のグループホームです。幼稚園児の慰問でお遊戯等の披露などで子どもたちとの交流する機会を設けたり、地域のボランティアの協力で日本舞踏や太鼓等の演奏披露会や事業所主催の夏祭りを開催して地域の人々に参加を呼びかけるなど地元の人々との連携や協力で日常的な交流に努め、認知症に対する理解や啓発に取り組んでいる。また、職員の就業環境の整備に取り組んでおり、退職金制度の導入や希望休の取得できる勤務体制づくりなど安心して働ける職場環境・条件の整備に努め、継続したサービスが提供できるように取り組んでいる。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Level (1-4), and Evaluation (O/empty circle). Rows 56-62 cover various service outcomes like staff understanding, user safety, and staff satisfaction.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	内容を具体化し、園内3か所に掲示。職員一人一人が理念を心掛け、利用者の方々と接する事が出来るよう日々の実践に繋げている。	「ゆっくり、たのしく、やさしく」の基本理念をもとに、職員会議や日常業務を通じて職員間で話し合い、理念を共有し、その実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭りの行列時に、ミニ縁日を開催し水分補給所を確保。また、推進会議の開催・食材の購入・床屋さんへの依頼・ボランティア団体の訪問による踊り・歌・太鼓・園児によるお遊戯等の演奏披露会・など地域との交流に努めております。	幼稚園児の慰問でお遊戯等の披露などで子どもたちとの交流する機会を設けたり、地域のボランティアの協力で日本舞踏や太鼓等の演奏披露会や事業所主催の夏祭りを開催して地域の人々に参加を呼びかけるなど地元の人々との連携・協力に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学の随時受入、また、推進会議等を活かし地域への発信を行う等対応しております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに利用者様の状態・状況報告・入居状況・通院状態・活動状況の報告をし意見を頂くなど、日々の介護・生活支援に活かせるようにしております。	定期的に運営推進会議を開催して、利用状況や日常生活の様子、事業所の取組み状況等の具体的内容を話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話や文章で相談・報告をし意見を頂く等、日々活かしております。又、実地指導にて不具合な点等の指導を頂き今後活かすよう努めております。	町担当者とは、業務を通じて相談や助言を得ながら情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回程度、身体拘束廃止推進委員会を実施し、プリント等により「何が」の部分を確認し、日々の援助・支援に活かせるよう努めております。	身体拘束廃止委員会の開催や内部研修会、外部研修参加を通じて指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行う職員会議の内部研修時、「虐待」に関する研修を行う。また、壁にポスターを貼る等し個々が確認できるよう努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度としてある事は把握しておりますが、研修の機会は十分ではありません。今後、職員個々のスキルアップ、必要に応じ活用していけるような形を目指し機会があれば研修にも参加して行きたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時・改定・解約時にはご理解・納得して頂けるよう説明を心掛けております。又、疑問点がある時は質問頂けるよう、随時説明出来るよう対応しております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望の有る時には口頭で受けられるような雰囲気作り・玄関に意見箱を設置し意見を伝えやすい形をとっております。推進会議等において、報告し参加者の方々より意見を頂く等運営に反映できるよう努めております。	来訪者や家族等が意見や苦情等を言い表せるよう「意見箱」を設置し、その機会を設け、そこでの意見や苦情等を職員会議等で話し合い運営に反映できるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回程度で個人面談をし、要望・意見等の確認を行い運営に反映できるよう努めております。疑問に思う事は、日々の申し送り時や個々に話し合う事が出来るよう対応しております。	個人面談の実施や職員会議等を通じて、職員の意見や提案を言い表せる機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。また、職員はすべて正社員で雇用し、就業環境整備に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格に応じ手当の支給、勤務時間による手当・長期連休時出勤者への手当等の支給。退職金制度の導入、年3回の賞与制度、福利厚生として年3回程度の食事会など行い職員が意欲的に働けるよう対応しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加、又、内部研修による知識の習得等、職員の知識の向上に努めております。一人ひとりが出来る事を行い、支え合い、ケアに関して教え、教えられ お互いに自身に無い物を習得しより良い形になる事を目標にが理想です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	隣接する「有料老人ホーム」と定期的に「リーダー会議」を行い意見交換し職員に周知サービスの向上に努めております。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接時において過去の生活歴、不安等の確認をし入居後安心して暮らせるよう努めております。また、入居後の要望・訴えに耳を傾け職員間で共有し随時対応可能な状態に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面接時や入居後でも不安や希望等随時傾聴し出来る限り意向に沿えるよう努めております。身体状態や通院時の報告等、毎月お手紙にて報告し状態が確認できるようにしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時、希望されるサービスの相談や必要に応じたサービスを提供できるように努めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は日々の中で声がけし協力して頂くように努めております。又、集団レク時間に皆で手作業をする事により、普段されない方も「やってみよう」思えるような形も取り入れております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お便りにて 毎日の日々の様子を送らせて頂き どのように生活しているかをお伝えしております。また、来園時には現状をお伝えし、共に支援して行けるよう対応しております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人・友人等が面会時はゆっくりと過ごせるように対応し、家族様が可能な限り外泊して頂き今までの関係を継続して行けるよう努めております。	町内での買い物や外食、幼稚園児や地元のボランティアの慰問を受けるなどで馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題・利用者同士の関係性等を把握し職員が接点となり、楽しい時間を過ごす事が出来るよう・良好な関係を築けるよう配慮・支援に努めております。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時の医師からのお話等、家族様に必要とされた場合は立ち会ったり、入院中の面会、他界された場合は葬儀へ参列等臨機応変に対応しております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話・相談・行動からそれぞれの思いを汲み取り職員間で共有しその人らしい生活に繋げられるよう努めております。又、ケアプランに反映し希望に沿えるよう支援しております。	アセスメントやモニタリング、職員会議を通じて一人ひとりの暮らし方の希望や意向の把握に努め職員間で情報を共有して、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族・ご本人からの会話や情報提供から知り得た事、生活歴・生活環境からのアプローチによりどのような状況下でサービス利用していたか等の把握、今後の生活に活かせるよう努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状態に合わせ対応しております。職員間での情報の共有、話し合い等 その人に合った支援を心掛けております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員による個別ケア対応を実施し、日々の状態や様子などの把握、家族様への状態報告と今後の対応についての相談話し合いなどをし、結果をケアプランに反映するよう努めております。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意向や要望、医師からの指導や助言、モニタリングを通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯職員が日々の様子を書き出し、夜勤体で振り分けすると言う事でそれぞれが携わる形を取り入れております。特変は申し送り時に都度報告しそれぞれ職員が把握し対応、ケアプランに反映できるよう努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの利用者様に個々の状態に合わせた対応と言う事で、色々な分野(新聞・テレビ・研修等)からの知識を取り入れながら手探りではありますが、実践できるよう努めております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食材購入・移動パン販売・消耗品購入・文化展への出品・幼稚園児のお遊戯披露会等地域との交流を図れるよう努めております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族様の希望、入居前から通院していた医療機関へ通えるよう支援しております。年1回施設医による健康診断や特変・救急時には救急外来の受け入れ可能な総合病院への受診も視野に入れております。	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、往診や通院への支援、日常の健康管理等で適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置はありませんが、医療的な相談は隣接する有料ホームの看護師や施設医であるクリニックの援助を受けながら適切な処置が出来るよう努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の情報に関しては、家族様との連絡にて状態把握に努め、入院時は利用者様情報の提供、また、退院時には現在状態のサマリーを頂く等、状況に即した対応が出来るよう努めております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	終末期については、体制が不十分な為行えておりませんが、出来る限りの範囲での協力や医療処置が必要な場合は医療機関に相談し対応する等、今必要な形が提供出来るよう努めております。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルを休憩室に常備し、いつでも閲覧可能な状態にしております。また、消防署の指導・協力により救命講習を受けております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施や施設内にスプリンクラーの設置する等しております。訓練は実際の消火訓練や移動時間がどの程度かかるか・振り返りこんな時は等状況を変え検討し災害時の備えております。	急変や事故発生時に備えて消防署の協力を得て、救急救命講習を受講している。また、自然災害(地震・津波等)に対応した準備や昼夜を想定した火災避難訓練を実施している。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は一人部屋・入浴も重なる事無く入る事が出来るようにしております。トイレは危険回避の意味合いも含め、開閉式のカーテンを使用しております。介助に関しては、近すぎず遠すぎずを踏まえ、節度ある対応を心掛けております。	日常業務や内部研修会開催などで一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように声かけや誘導等を工夫し、職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、出来る限りご本人の意思を尊重し確認し対応する事、また、意思表示が困難な方には声がけて対応し、自己決定の出来る環境造りに努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	会話の中から、一人ひとりの思いを汲み、可能な限り対応させて頂けるよう努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を自分で選べる方は選んで頂き、介助が必要な方はこちらで選び確認して頂く等対応しております。離床時には整髪・整容する等の声がけや介助を行う等の支援をしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時には職員も一緒に卓を囲めるよう努めております。また、一人の咀嚼・嚥下状態に合わせた食事提供を行っております。誕生日や敬老の日等はお好みメニュー・お祝いメニュー等の対応をしております。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に食事の準備や後片付けなどを行っている。また、町内での外食や事業所主催の夏祭りや野外での喫食等、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	時間での提供も心掛けておりますが、都度つどの水分提供を行うなど脱水への対応を心掛けております。又、水分・食事量の記録を行い日々の摂取量の確認も行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後の口腔ケアにより口腔内を清潔に保ち感染症や誤嚥性肺炎等の予防に努めております。ケアスポンジや舌苔除去ブラシを使用する等一人ひとりに合わせて対応しております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	此処の排泄パターンを把握し、日中・夜間と声がけトイレ誘導をしておりますが、夜間は状態に合わせ危険の無いよう対応しております。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	申し送り時には必ず伝えるようにし、それぞれの排便パターンを把握し便秘時には医師へ相談し対応しております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回の入浴を目標としますが、ご本人の希望・状態により変更する事等、ご本人の希望やタイミングに合わせ支援させて頂いております。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて週2回を目安に入浴支援をしている。また、拒否の強い本人にも対応した柔軟な入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠・不穏のある方は、水分補給する等安眠できる環境づくり、離床時間の確保や昼寝の声がけ等状態に合わせ支援対応しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をいつでも確認できるようスタッフルームに配置しております。事故防止の為、それぞれの手がける時に確認する事又、処方時には必ず処方数の確認するよう位置づけております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴・現在の状態に合わせ個々ができる範囲で行える事を行って頂くように支援しております。又、週1回の集団レクでは皆さんが楽しく参加できるよう計画を立て実施しております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外へ散歩に行ったり、通院で外出時に自宅周辺や知人に会う等、体力的に負担にならない程度に支援しております。町の行事・幼稚園行事等見学できる範囲で行っております。	地域の行事参加や通院時のドライブ、町内での買い物や近隣散歩、幼稚園の運動会見物など戸外に出かけられるように支援している。	重度化により本人の外出への希望が少なくなってきたが、戸外に出かけられるよう職員間で検討しているので、その実践に期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売来園時や通院時に食べたい物などの購入をご本人に選んで頂き購入する等しております。金銭管理が難しい方は、選んで頂き支払の代行を行うように対応しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に使用できる電話の設置はありませんが、申し出時には取り次ぎし、不自由の無いよう対応しております。手紙も必要に応じ代筆する等の対応をしております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2か月ごとに壁の装飾を変える等 季節に応じて対応しております。また、集団レク時の写真を掲示し皆さんの目に届くようにしております。装飾品に関しては、なるべく利用者の方と共同作業にて行えるよう心掛けております。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間には行事参加の写真の掲示や季節ごとの飾りつけなどで生活感や季節感を採り入れて、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のホールに関しては動線を確保しながら皆さんがくつろげるような配置を考え、車椅子の方も移動できるスペースを確保しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れた筆筒・ベッド等の持ち込みや希望があれば仏壇の持ち込みも可能です。ご本人が心地よく生活出来るよう努めております。	居室には、使い慣れた家具や日常生活用品等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「トイレ」「お風呂」等の印、居室前には各個人の名前や目印をつける等対応しております。施設内はバリアフリー対応・廊下全般には手すりの設置や玄関にイスを設置し安全に靴を脱ぎ履き出来るよう配慮しております。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ひだまりの家

作成日: 平成 29年 7月 27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	49	利用者様のADLの低下に伴い、行動範囲の縮小が見られる。	外出出来る機会を作り皆さんが個々に合う形で外出支援を行えるようにする。	温かい日には少しの時間でも外へ外出出来るような習慣をつける。	3ヶ月
2	18	団体生活に馴染む事が出来ない利用者様のケア。	皆に馴染む事が出来なくとも、会話する事が出来、自分の気持ちを言葉で伝える事が出来る。	職員とのコミュニケーションの強化。利用者様同士が違和感なく生活出来るよう支援して行く。	6ヶ月
3	13	外部研修への参加	気兼ねなく外部研修に参加する事が出来る。	職員数の安定。	3ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。